

### 第3章 施設整備

---

## 1. 施設整備の基本的な考え方

施設整備に当たっては、施設で展開される幅広い事業活動の活性化に寄与し、区民をはじめ多くの人々に親んでもらえる施設の実現を目指し、以下の方針を掲げます。

### (1) 吉村文学とのふれあい

力強く生きる人々の姿を描き、「生」を問い掛けることをテーマにした吉村文学が発信するメッセージを通して、観る人の心に訴え掛ける展示や教育普及活動のための空間の充実を図ります。

### (2) 利用者が安らぎとゆとりを感じられる空間

区民をはじめとする利用者が安らぎとゆとりを感じながら、文学と親しみ、文化をはぐくむことのできる空間の実現を目指します。

### (3) 複合機能との有機的な連携による機能の向上

図書館やその他の公共施設と併設することにより、区民に利用しやすい施設とします。特に、吉村作品の広大な文学世界をより深く探求するため、図書館機能との有機的な連携を目指します。

### (4) 資料の安全性への配慮

吉村氏にかかわる寄託資料をはじめ、収蔵する貴重な資料の安全性を第一に、スムーズな収蔵動線の確保、防犯対策、防災対策を検討します。

### (5) ユニバーサルデザイン

すべての人に利用しやすい施設として、ユニバーサルデザインに配慮した施設とします。施設内外部における床レベルの段差の排除やエレベータの設置などのバリアフリーはもとより、幅広い視点から利用者の安全性の向上と身体的負担の軽減を図ります。

### (6) 環境負荷の低減による効率化

設備的な省エネルギー対策に加え、日射や外気の影響による空調への環境負荷を軽減するなど、積極的な省エネルギー対策を導入し、維持管理費の軽減を図ります。

## 2. 施設の規模と構成

### (1) 部門構成

文学館の部門構成は、館の事業内容から、求められる施設部門と諸室を整理すると、以下のように考えられます。詳細については、施設規模などと併せて、今後さらに検討します。

部門	主要諸室
展示部門	常設展示室、準常設展示室、企画展示室、展示準備室から構成されます。
教育普及部門	多目的室、情報検索・図書閲覧コーナーから構成され、来館者の学習の場とします。
収蔵部門	資料を安全かつ健全な環境で保存するために必要な特別収蔵庫、一般収蔵庫、備品などの保管庫などの諸室から構成されます。
管理・研究部門	館長室、事務室、学芸研究室などから構成され、文学館の管理運営、調査研究を行います。
共用部門	ミュージアムショップなどのサービス施設やエントランスホール、トイレ、廊下、階段などの共用空間により構成されます。
機械部門	空調、電気などの機械設備を設置します。

## (2) 施設規模と諸室面積

## 1) 類似施設の施設規模からの算出

館の施設規模を想定するに当たり、人物記念館の類似施設5館を参考にします。5館の平均施設規模は1,071㎡であり、この結果から見ると、延床面積1,100㎡前後が文学館の妥当な施設規模と考えられます。

- ア. 面積・・・1,100㎡  
 イ. 構造・・・鉄筋コンクリート(RC)造  
 ウ. 階数・・・1層～3層

類似施設における平均値から各部門配分を算出し、これに基づき各部門面積を算出すると、以下のようになります。

## [類似施設の平均的な部門面積]

部門	類似施設平均値の 各部門配分	目安となる部門面積
展示部門	32.5%	360㎡
教育普及部門	8.8%	100㎡
収蔵部門	6.6%	70㎡
管理・研究部門	9.8%	110㎡
共用・機械部門	42.3%	460㎡
合計	100%	1,100㎡

## 参考データ：人物記念館の類似施設

No.	館名	設立	開館年	延床面積 (㎡)	部門面積(㎡)				
					収蔵	展示	教育普及	研究・管理	共用・機械
1	野村胡堂・ あらえびす記念館	町立	1995	1,103	132 12.0%	323 29.3%	165 15.0%	157 14.2%	326 29.6%
2	宝塚市立 手塚治虫記念館	市立	1994	1,395	92 6.6%	513 36.8%	78 5.6%	73 5.2%	639 45.8%
3	曾我・平澤記念館	町立	1991	643	19 3.0%	308 47.9%	0 0.0%	20 3.1%	296 46.0%
4	斉藤茂吉記念館	町立	1989	1,354	65 4.8%	367 27.1%	144 10.6%	234 17.3%	544 40.2%
5	樋口一葉記念館	区立	2005	861	45 5.2%	230 26.7%	85 9.9%	40 4.6%	461 53.5%
平均				1,071.2	70.6 6.6%	348.3 32.5%	94.4 8.8%	104.8 9.8%	453.2 42.3%

## 2) 所要室の設定および規模

必要な各機能について所要室を計画し、規模を設定します。

### ① 展示所要室

展示機能に合わせた所要室を、以下に設定します。

常設展示室140㎡、常設及び企画兼用140㎡（以上常設としては280㎡）、企画展示室120㎡とし、全体で400㎡とします。類似施設の平均値は約360㎡ですが、企画展示を充実させるために40㎡増やします。

### ② 教育普及所要室

多目的室は、100名程度収容可能な規模とし、120㎡程度を見込みます。類似施設の平均値は約100㎡ですが、教育普及活動を充実させる観点から120㎡とすることが望まれます。

### ③ 収蔵所要室

特別収蔵庫、一般収蔵庫（書庫）、保管庫、搬入・荷解室を設けることとします。類似施設の平均値は約70㎡ですが、将来の資料増加に備えて130～250㎡とします。

- ・特別収蔵庫：恒温恒湿環境を維持し、自筆原稿や愛蔵品など、特に貴重で保存環境への配慮が必要な資料を保存する。
- ・一般収蔵庫：著書や関連図書などを保存する。
- ・保管庫：展示備品などを保管する。

### ④ 管理・研究所要室

管理・運営に必要な部屋として、館長室、事務室を設けることとします。事務室に隣接して来館者用受付を設け、対応を行います。

事務室は、事務員4名×7㎡≒30㎡程度（来館者用受付を含む）、学芸研究室は展示準備室を兼ね、4名×7㎡+15㎡≒45㎡とします。館長室は来客用の応接スペースを確保し、1名×7㎡+8㎡≒15㎡程度とします。これに、湯沸し室・ロッカー室20㎡を加え、類似施設の平均値と同じ110㎡とします。

## 3) 本施設に必要とされる施設規模の算出

総体的に見ると施設が大型化している傾向が見られます。これは、展示が資料中心のものだけでなく、多様な展示演出を採用しているなどの施設機能の充実によるものと考えられます。

類似施設の施設規模に後述(2-(3)規模設定)の当文学館が必要とする追加面積100~300㎡(展示部門40㎡、収蔵部門60~180㎡など)を加えると、施設規模は以下のようになります。

ア. 面積・・・1,200~1,400㎡  
 イ. 構造・・・鉄筋コンクリート(RC)造  
 ウ. 階数・・・1層~3層

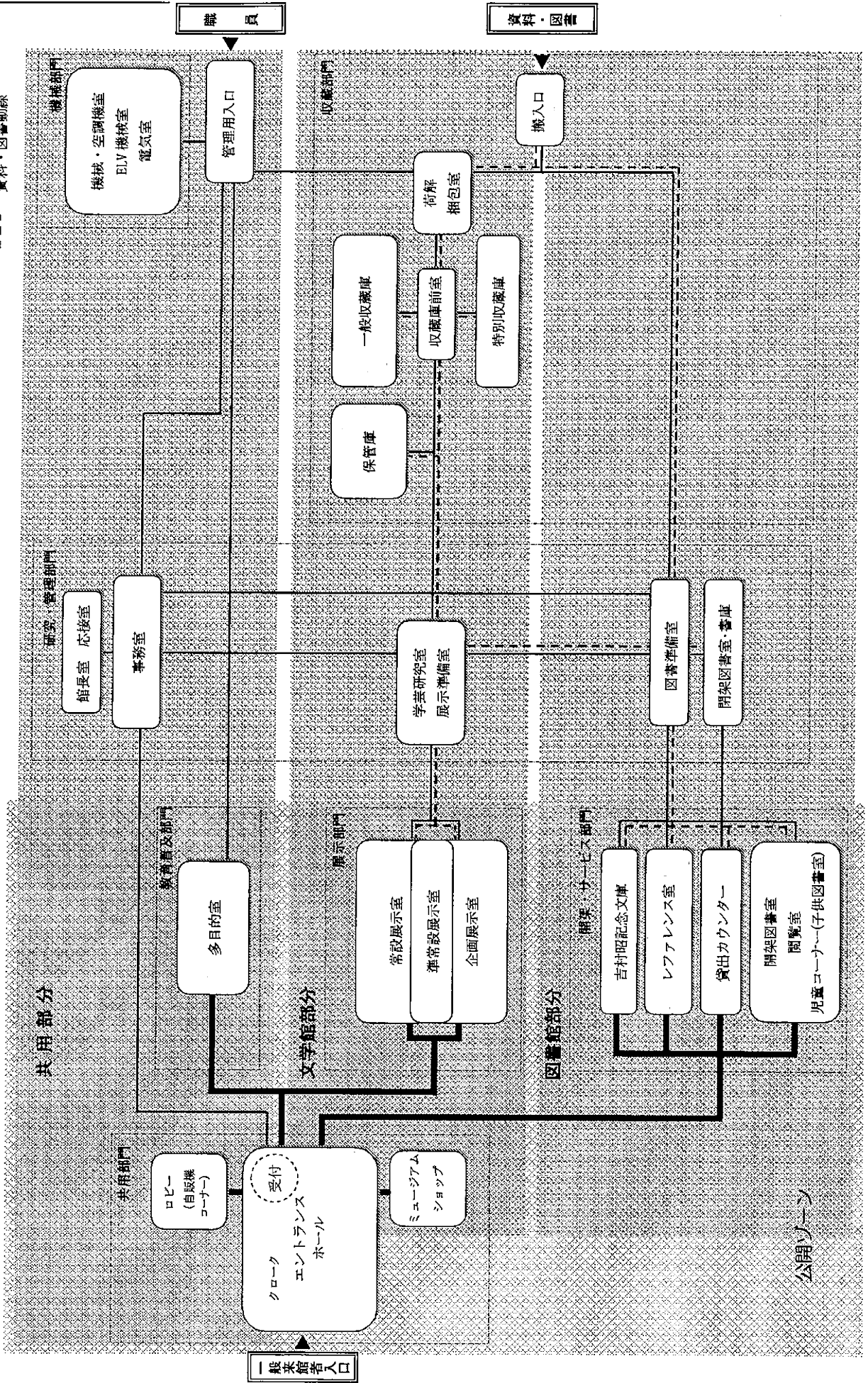
必要とされる規模より各部門面積を算出すると、以下のようになります。

## [必要とされる施設規模の部門面積]

部門	目安となる部門面積	追加面積	当文学館の面積	面積配分
展示部門	360㎡	+40㎡	400㎡	28.6%
教育普及部門	100㎡	0~+20㎡	100~120㎡	8.6%
収蔵部門	70㎡	+60~180㎡	130~250㎡	17.9%
管理・研究部門	110㎡	±0㎡	110㎡	7.8%
共用・機械部門	460㎡	0~+60㎡	460~520㎡	37.1%
合計	1,100㎡	+100~+300㎡	1,200~1,400㎡	100.0%

(3) 諸室機能構成図 (図書館併設型)

- 一般来館者動線
- 管理者 (職員) 動線
- - - 資料・図書動線

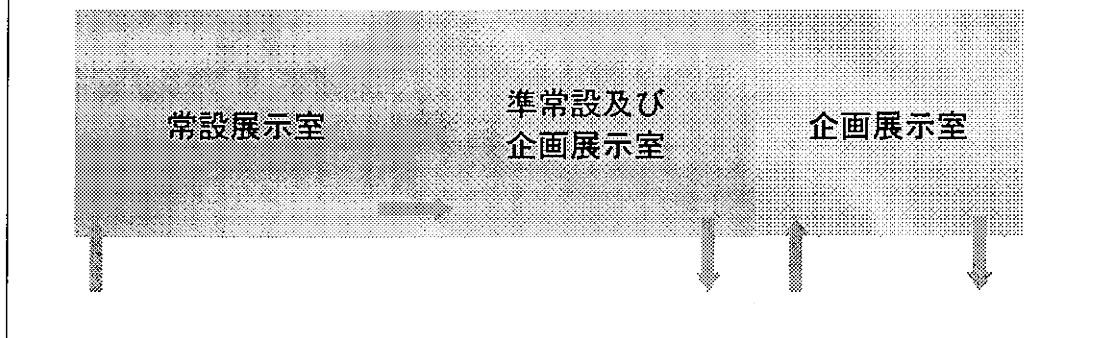


## (4) 展示室の可変性について

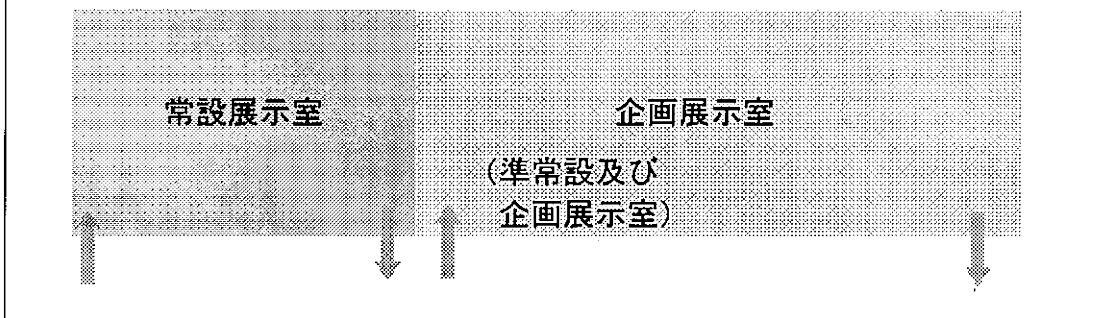
常設展示室は固定展示とし、準常設及び企画展示室は企画展スペースとして利用できるよう考慮したデザインとします。

## [展示室構成イメージ (例)]

## ①通常 (小型企画展開催時) のパターン



## ②企画展開催時のパターン



## ③吉村文学をテーマにした大型企画展開催時のパターン

